サンタ捜索再始動

衛星・誘引システム導入も

サンタクロースの存在を信じる子どもたちのため、サンタの行方を追う「どうしんサンタ捜索チーム（以下サンタ捜索チーム）」が、今年も活動をスタートさせる。4年目となる今年は、活動範囲をさらに拡大。捜索体制の見直しや新たな捜索アイテムも導入し、さまざまな手法でサンタの謎に挑む。

どうしんサンタ捜索チームは、サンタを信じる子どもたちの声に動かされ2010年11月に発足。サンタクロースの目撃情報を広く収集し、調査経緯を北海道新聞朝刊で発表してきた。

活動4年目となる今年、サンタ捜索チームの新たな取り組みとしてトナカイの生態・習性に着目し、サンタを呼び寄せるという「サンタ誘引システム」の開発・設置や、トナカイレーダーを搭載し宇宙からサンタを探索する「サンタ探索用衛星」の打ち上げを計画し、さらなる捜索活動の拡大を狙う。

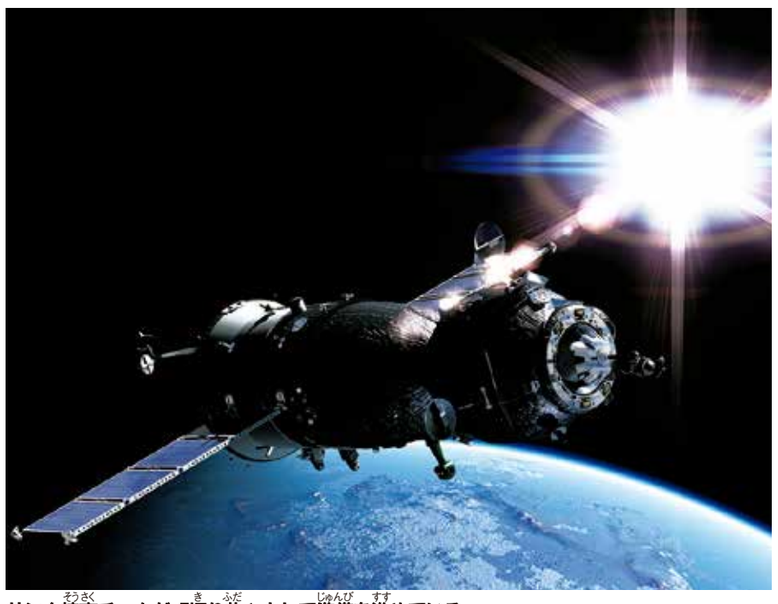
捜索本部のある北海道新聞社（札幌市中央区）の屋上には、昨年の倍となる10基のトナカイレーダーに加え、録音したトナカイの鳴き声を空に向かって流し、仲間を誘引する音声装置「サンタ誘引システム」を設置する。

トナカイは集団で繁殖するため、仲間の鳴き声に引き寄せられる習性を持つ。昨年、フィンランドの研究機関が同型の音声装置で実験を行った結果、サンタの飛来の痕跡が発見されたとの報告もあり、同チームでも新システム導入に踏み切った。

今年、同チームが準備を進めているのが、世界初となる「サンタ探索用衛星」の活用。12月初旬に十勝管内大樹町中心部から15キロ、太平洋に近い美成（びせい）地区にある多目的公園から打ち上げられる予定。地上特設本部に口径10メートル級のパラボラアンテナ77台を並べ、宇宙からの電波を観測するという。

この衛星の画像解析度は、従来の気象衛星の約2倍で、地球全体を観測するのにかかる時間は約5分。光速ともいわれるサンタの飛行速度でも一度その姿を捕捉すれば詳細なデータを測定できるという。衛星にはトナカイレーダーを搭載するほか、高性能の観測機器15種でサンタが発する熱や振動を感知して、行動範囲を調査。レーザーや電波の反射を基に飛行経路も推測する。さらにハイビジョンカメラで、飛行中のサンタの表情を捉える。陣頭指揮を執る三田本部長は「サンタ探索用衛星は、捜索チームの夢。もしサンタの姿を確認できたら世界の常識がひっくり返る」と、歴史的な挑戦に意欲を見せる。

また、サンタが離着陸可能な「専用休憩所」の設置も計画。地元児童が描いた絵で壁面を飾り、中央にはソリを模したベンチを設けるなど、サンタを呼び寄せる仕掛けを展開する予定だ。



サンタ捜索チームが「切り札」として準備を進めている
サンタ捜索用衛星イメージ図（12月初旬打ち上げ予定）

捜索の皮切りは道東

コーチャンフォーなど聞き込み調査へ

今年のサンタ捜索は、釧路市を中心とした道東エリアからスタートすることが決定した。昨年同エリアではサンタとおぼしき目撃情報が多数報告されており、有力な手掛かりが得られる確率も高い。今年も幸先の良いスタートを切りたい捜索チームが決断した。

道東エリアでは、昨年11月24日未明に釧路湿原展望台において、観光客が謎の光る物体を目撃。その報を受けた捜索チームにより、約40メートルに及ぶ巨大な足跡が発見されている。また、同日の同時間帯に釧路湿原から20キロほど離れた釧路市内中心部でも同様の目撃情報があり、コーチャンフォー釧路店（釧路市春採7）付近で複数の書店員、来店客が謎の光を目撃していた。また、市内に架かる幣舞橋（ぬさまいばし）では、12月24日午後11時ごろ住民数人によって「ホーホーホー」という老人男性の声が聞かれているほか、阿寒湖でも同時刻に鈴の音が聞かれていた。

この結果を踏まえ、捜索チームでは、札幌から釧路へ捜査員を追加で派遣。コーチャンフォー周辺や、釧路湿原、阿寒湖などで聞き込み調査を予定している。加えて、昨年は手薄だった厚岸・白糠・帯広まで捜索範囲を拡大。捜索チームからは「どんなささいなことでもいいので情報があれば教えてほしい」と協力を呼び掛けている。

昨年多くのサンタ目撃情報が寄せられたコーチャンフォー釧路店

次世代のサンタは道産子？

釧路で後継者探しか？

市内各地で目撃情報

サンタの後継者？釧路市動物園のキリン「スカイ」君

【釧路】釧路市内のコーチャンフォーをはじめ、幼稚園、小中学校、子どもたちが集まる公園を中心に不思議な生き物が目撃されているようだ。目撃者の話によると、その生き物は手のひらに乗りそうなサイズながら赤白の服を着用しているという。捜索チームでは、フィンランドの言い伝えに残る、サンタの助手を務める妖精「エルフ」と「トント」である可能性が高いとみて捜査を進めている。

この妖精たちが釧路市内に出没している理由として挙げられるのが、サンタの高齢化。一説によると、サンタの年齢は1800歳を超えており、サンタが助手たちに指示を出して後継者を探しているという説が有力視されている。

また、今年10月以降、釧路市動物園周辺では、謎の人影が頻繁に目撃されている。トナカイ舎周辺だけでなく、キリン舎周辺でその影を見たという声が、関係者から寄せられている。9月には、おびひろ動物園からキリンのスカイ君が来園し、注目を集めているキリン舎。捜索チームは、サンタがトナカイの後継者を探しつつも、長い首を使って高い煙突からプレゼントを入れてくれるキリンを、サンタの後継者候補として考えているのではないかと推測。

キリンをトナカイの後継者とした場合のサンタの飛行方法も含め、さらに詳しく調べを進める。

今月のおすすめ

コーチャンフォー × 北海道新聞

クリスマスカードプレゼント

今年もいよいよクリスマスまであと約1カ月。この時期、準備される一つが「クリスマスカード」だ。サンタへ願いを書く子どもや大切な人へ感謝の気持ちを伝えるためにカードを贈る大人もいる。かわいらしく彩られたクリスマスカードは、もらった人をワクワクさせてくれる。

そこで、北海道内で書店9店舗を展開するコーチャンフォーでは、北海道新聞とタイアップし、クリスマスカードをプレゼントする「オリジナルサンタカード」キャンペーンを実施する。本日から12月10日（火）まで、コーチャンフォー各店舗（リラブを含む計9店舗）内にある申し込み用紙に必要事項を明記し、申し込みボックスに投函すると、先着で12月24日に「コーチャンフォー×北海道新聞」オリジナルサンタカードが届く。受付時間は午前10時から午後6時まで。各店舗先着順となるため、枚数に到達した時点で終了となる。なお、サンタカード発送対象は未就学児（6歳まで）で、1家族につき1枚での応募となる。問い合わせはコーチャンフォー各店舗へ。

カードにはうれしい仕掛けも…!?

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は11月下旬朝刊予定

捜索チーム体制図を発表

旧体制見直し新部署追加

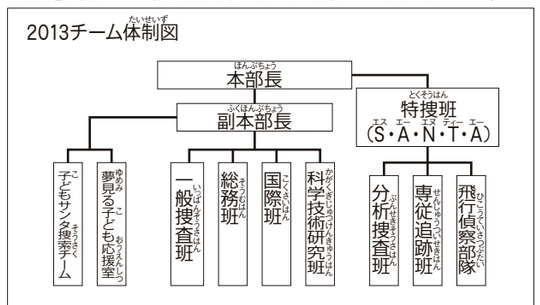
サンタ捜索チームは、円滑なサンタ捜索体制を整えるため、同チームを構成する各機関の管理者による連絡協議会の初会合を20日、北海道新聞本社で開いた。

昨冬、クリスマスが近づく頃には、サンタの目撃情報など住民からの問い合わせが同チームに殺到。昨年までは各機関の連携体制が整っていなかったことから、今年初めて各機関による連絡協議会を立ち上げた。

この日開かれた協議会では、各機関がサンタの捜索体制やサンタに関する住民からの問い合わせ状況を報告。情報の共有を行うため、チーム体制と連絡体制を強化するなどの事項を確認した。

捜索チームの発表によると、チームの新体制は図の通り。従来の捜索班は「一般捜査班」となったほか、欧米諸国に在住する捜査員を国際班に統一した。昨年発足した特捜班は据え置きとなった。また、子どもたちの「夢見る力」の育成を応援する「夢見る子ども応援室」を、新たに設立した。

2013チーム体制図



どうしんサンタ捜索チームDATA
・発足／2010年11月　・本部／北海道新聞社　・メンバー／約200人　拠点／全道12カ所　他国専門機関との連携／北欧十数カ国の大学、専門機関と連携

サンタ情報求ム 2013サンタ捜索チーム

サンタ信じる子どもの声が後押し

クリスマスの意義考える機会にも

今年こそサンタの証拠をつかみたい――。過去3年にわたってさまざまな活動を行ってきたサンタ捜索チーム。札幌上空の飛行体を監視するライブカメラを設置するほか、トナカイの赤い鼻から発せられる特殊波をキャッチする「トナカイレーダー」を稼働させ、その航跡を「サンタ特設WEB」で公開するという試みも行った。

初年度は、さっぽろテレビ塔（札幌市中央区）の展望台屋上部分に、サンタと思われる足跡が発見された情報を公開。翌年には、サッポロファクトリー（中央区）内の煙突広場で、サンタが残したと思われる赤い布が発見されたことをスクープ。また、同年のクリスマスイブには、札幌もいわ山ロープウェイ展望台（南区）で、大きなそりとトナカイの足跡を発見するに至った。昨年は、北海道開拓の村（厚別区）で、100年前のサンタの物らしき衣服を発見したのを皮切りに、同チームが新たに発足させた特捜班などの活躍により、道内各地でサンタの痕跡を相次いで発見。多くの謎に包まれたサンタの正体に「あと一歩で追い付く」（三田育三・特捜班本部長）ところまで肉薄した。

こうした活動の背景には、近年サンタクロースの存在感が薄れてきていることへの危惧があるという。同チームで夢見る子ども応援室を務める仁古田（にこだ）さんは「謎に包まれたサンタの正体を、いろいろな角度から調べることで、子どもたちにクリスマスの意義を再発見してほしい」と語る。

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。